

至誠館大学

科目名	体育原理			コード			
英語表記	Philosophy of Physical Education and Sports						
担当教員名	船場 大資			年度	平成28年度		
基準年次	1年次	開講期	前期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式		履修形態	選択		
授業概要							
文化現象としての体育・スポーツにおける問題を哲学的方法を用いて省察する。体育・スポーツの概念、スポーツとコミュニケーション、身体文化の3元論、遊戯論とスポーツ、ナショナリズム、政治とスポーツの問題に焦点をあて、身体論から投影されるパースペクティヴを紹介する。個人、集団をとりまく体育・スポーツ現象に対する学問的アプローチの方法を学習する。体育を哲学する思考トレーニングとして、毎時「コミュニケーションカード」の記入を行う。							
到達目標							
1.体育とスポーツの概念、2.前近代と近代体育・スポーツの概念の定義、3.身体とコミュニケーション4.スポーツの文明化論、5.身体文化論のパースペクティヴ、6.遊戯論、7.オリンピズム、7.アマチュアリズム、8.スポーツの政治的中立性に関する理論を学習し、理解を深め、思考力を養う。また、専門用語を用いて、自分なりの考えを表明できるようにする。							
授業計画							
第1回	理論としての体育・スポーツ:今日の体育学・スポーツ科学体系						
第2回	体育・スポーツの概念史						
第3回	近代体育・スポーツの定義:アレン・グットマンによる7つの定義						
第4回	身体とコミュニケーション(1):コミュニケーション不全症候群						
第5回	身体とコミュニケーション(2):スポーツは期待に応えられるか。						
第6回	近代スポーツのオールタナティブ						
第7回	身体文化論のパースペクティヴ(1):三元論の特徴						
第8回	身体文化論のパースペクティヴ(2):三元論をとりまくコミュニティ						
第9回	身体文化論のパースペクティヴ(3):まとめ						
第10回	遊戯論(1):ホイジンガ『ホモ・ルーデンス』						
第11回	遊戯論(2):カイヨワの遊戯論他						
第12回	遊戯論(3):H・レールスの『スポーツと遊戯』						
第13回	スポーツと思想(1):オリンピズム、ナショナリズム						
第14回	スポーツと思想(2):アマチュアリズム、スポーツの政治的中立性						
第15回	スポーツの文明化を巡る考察						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
出席状況、ペーパー試験とコミュニケーションカードにより総合的に判断する。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				20	20	60	
授業外学習			テキスト、教材				
			本授業用に開発した独自のテキストを配布する。				
参考書			受講生へのメッセージ				
アレン・グットマン(清水哲男訳)『スポーツと現代アメリカ』TBSブリタニカ、1981年。 /J・ホイジンガ(高橋英夫訳)『ホモ・ルーデンス』中央公論社、1983年。 /H・レールス(長谷川守男監訳)『遊戯とスポーツ』玉川大学出版部、1987年。 /多木浩二著『スポーツを考える:身体・資本・ナショナリズム』ちくま新書、1995年。			「思考のプロセス」が重要です。日頃から体育・スポーツ事象について思いをめぐらし、疑問に思うことがないか考えてみましょう。				
キーワード							